

2025 年度 教育課程

基 礎 分 野

基 礎 分 野

位 置 づ け

本分野は，専門基礎分野と専門分野を学習するために，必要な知識・技術・態度を養うとともに，学習者が豊かな人間として成長していく素地を養う領域として位置づける。

目 的

専門基礎分野と専門分野を習得するために，必要な知識・技術・態度を養うとともに，学習者が豊かな人間として成長していくための素地を養う。

科目名	論理学						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	山田 道子（実務経験のある教育者）						
ねらい	看護師の科学的思考の基盤として、物事を筋道立てて正しく考える能力（論理的思考力）と考えたことを表現する能力を養う。						
回 数	内 容						授業形態
1～15 回 (45 分)	1 「論理」・「論理学」について 2 助詞の使い方 表現文作成 3 論理的思考 要約 4 論理的見方 引用 5 箇条書き 一文一義 文の接続 6 論理的な整理 一文・二文構成 文末表現 7 論理的発想 句読点 8 命題 推論						講義 演習
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験 レポート内容 } 等で総合的に評価する。						
必須資料 (テキスト等)	入門！論理学 （中公新書） 原稿用紙（A4 サイズ）						
参考資料	・授業資料は適宜講師が準備し、印刷のうえ配布する。						
履修上の 留意事項	・文章を作成することをおして、論理的な思考を育んでいくので、積極的な参加を望む。						

科目名	情報科学総論						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	梅山 規男（実務経験のある教育者）						
ねらい	情報処理及びコンピュータに関する基礎的知識を理解し、医療分野における IT 化に対応できる基礎的能力を習得する。						
回 数	内 容						授業形態
1 ～ 7 回	1 医療と情報科学 1) 情報科学の基礎 2) 情報技術とコンピュータ 3) 医療と情報システム 4) 病院の医療システム 2 パソコン演習 1) 基本操作 2) 文書作成 3) 表計算・統計ソフト 4) 情報検索						講義 演習
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料（テキスト等）	系統看護学講座 別巻 看護情報学 （医学書院）						
参考資料	・ 授業資料は講師が適宜準備し、印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・ パソコンを使用した演習がある。（学校からパソコンを貸し出す。） ・ 積極的な授業姿勢を望む。						

科目名	看護情報科学						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	富田 美加（実務経験のある授業科目：保健師・看護師）						
ねらい	医療・看護における情報システムの基礎的知識を理解するとともに、情報を適切に管理する能力を養う。						
回 数	内 容						授業形態
1～5 回	1 保健医療と情報 1) 看護情報学の概念と基礎 (1)看護と情報科学 (2)看護と情報社会 2) 看護における情報の種類と意義 (1)医療における情報 (2)エビデンスに基づいた保健医療 (3)看護に有用な学術情報源 3) 看護における情報倫理 (1)患者の権利と情報 (2)患者情報の保護と医療従事者の義務						講義
6・7 回	2 看護における ICT の活用 1) 医療における情報システム 2) 病院情報システム (1)電子カルテ (2)オーダリングシステム (3)看護管理・業務支援システム (4)病棟管理・支援システム 3 保健医療福祉のネットワークと情報システム 1) 地域の医療提供体制とネットワーク 2) 地域包括ケアシステムとこれからの情報活用の展望 遠隔医療・遠隔看護						
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 別巻 看護情報学 （医学書院） 看護に活かす文献検索入門：学び続けるための情報検索スキル（中央法規出版）						
参考資料	・授業資料は講師が適宜準備し、印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・「情報科学総論」の復習をして臨むこと。 ・積極的な授業姿勢を望む。						
履修上の 留意事項	・「情報科学総論」の復習をして臨むこと。 ・積極的な授業姿勢を望む。						

科目名	看護に活かす数学化学						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	数 学：角田 実（実務経験のある授業科目：高校教諭（数学）） 化 学：櫻井 義雄（実務経験のある授業科目：高校教諭（化学））						
ねらい	看護に必要な数学や化学の基礎知識を確認し，基本的な計算を習得する。						
回 数	内 容						授業形態
1 ～ 4 回	1 数学Ⅰ 1) 四則演算 2) 分数の計算 3) 比例・割合計算 4) 薬液濃度・希釈計算 5) 輸液の滴下・残量計算						講義 演習
5 ～ 7 回	2 化学基礎 1) 水素イオン濃度 2) 浸透と拡散 3) 陽圧と陰圧						
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	やりなおし数学・物理 （照林社） 生理学・生化学につながるていねいな化学（羊土社）						
参考資料	・必要であれば講師が適宜準備し，印刷のうえ配布する。						
履修上の 留意事項	・高校までの既修学習内容である数学と化学を基礎とした，看護に必須な数学・化学の基礎知識を確認する。 ・適宜小テスト等も実施する。（最終評価に反映することもある。） ・積極的な授業姿勢を望む。						

科目名	心理学						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	生越 達（実務経験のある講師）						
ねらい	心理学的なものの見方・考え方を理解し、人間の行動を多面的に理解する能力を養う。						
回 数	内 容						授業形態
1・2回	1 人間理解の方法としての心理学 1) 心理学の歴史 2) 心理学研究法						講義
3～12回	2 人間のこころの働き 1) 感覚・知覚 2) 記憶 3) 思考・言語・知能 4) 学習 5) 感情						
13～15回 (45 分)	3 性格の心理 1) 人格と性格 2) 性格の形成 3) 性格テスト						
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 基礎 心理学 （医学書院）						
参考資料							
履修上の 留意事項	・看護の対象となる患者や家族等, 対象を理解するための基礎的内容なので、積極的な授業姿勢を望む。						

科目名	社会学						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	小笠原 伸（実務経験のある教育者）						
ねらい	人間の生活の基盤である家族・社会および人間と社会との関係を理解し、人間を社会的な存在として理解するとともに、変容する地域社会とそこに暮らす人々の課題を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1～8回	1 社会学とは 2 人間と社会 1) 社会で生きる「わたし」 2) 社会化と他者 3) 人間の集まり 3 家族 1) 基礎集団としての家族 2) 変容する家族のかたち 4 地域社会 1) 社会集団としての地域社会 2) 農村社会と都市社会 3) ローカルコミュニティ 4) 脱地域化と再地域化 5) 地域社会の課題と今後の展望						講義 GW
9回 (45 分)	フィールドワークオリエンテーション						説明
10・11 回	地域を知る。地域で暮らす人々を知る。生活を知る。						フィールドワーク
12・13 回	地域社会の課題と展望（※GW 発表準備含む）						GW
14・15 回	地域社会の課題と展望の共有						GW 発表
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験及びレポートで評価する。						
必須資料 (テキスト等)	なし						
参考資料	・ 講義資料は必要時、講師が適宜準備し、印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・ 地域の理解を深めるためのフィールドワークを実施する。（土日になることもある。） ・ グループでの活動もあるので、メンバーとしての役割を果たすこと。 ・ 積極的な授業への参加を望む。						

科目名	教育学						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	中山 万里子（実務経験のある教育者）						
ねらい	人間形成における教育の機能と，教育を受ける対象や生涯学び続け，成長し続ける学習者としての人間を理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1～3 回	1 社会の中の看護と教育 看護師と教育 2 教育とはなにか - 「教育」の概念 - 1) 教育がつくるもの 2) 人間の成長と環境 3) 教育の本質						講義 GW
4～6 回	3 教育の対象 - 子ども観と発達 - 1) 子ども観の形成 2) 子ども観の変遷						
7～11 回	4 養護 -教育の受け手を見守る- 1) 愛着・アタッチメント 5 発達 -教育を受けて成長する- 1) 指導 2) 教育 3) しつけ 6 学びの場 -学校と家庭- 1) 学びの場 学校という規範 2) 家庭と学校の関係 3) 現代学校の課題						
12～15 回 (45 分)	7 特別ニーズ教育・インクルーシブ教育 8 看護師と生涯学習						
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 基礎 教育学 （医学書院）						
参考資料	・授業資料は必要時，適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・看護の対象である対象理解や，対象への教育に関する基礎的内容なので，積極的な授業姿勢を望む。 ・看護の基本となる技術Ⅴ（指導技術）の科目の基礎となるため，積極的な授業姿勢を望む。						

科目名	倫理学 I						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	峯崎 賢亮（実務経験のある授業科目：医師・住職）						
ねらい	看護を学ぶにあたり，医療のあり方やいのちの尊厳等について深く考えるとともに，倫理学の基礎的知識を理解する。						
回 数	内 容					授業形態	
1 回	1 道徳と倫理 倫理と法の関係					講義	
2～4 回	2 生きることと死ぬこと 1) 生命を尊ぶこと 2) 健やかに生きること 3) 老いるということ 4) 穏やかに死ぬこと					講義 GW	
5・6 回	3 医の倫理と生命倫理 1) 医の倫理 2) 生命倫理の4 原則						
7 回	4 医療従事者になることと生命倫理					講義	
(45 分)						試験	
評価方法 及び観点	筆記試験 GW の参加度 レポートの提出状況 レポートの内容 等で総合的に評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門基礎 医学概論 (医学書院) 別巻 看護倫理 (医学書院)						
参考資料	・授業に必要な資料は，適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・現代社会の倫理的課題について深く考え，積極的に探究する姿勢を望む。 ・グループワークで意見交換をおこなうので，積極的に参加すること。						

科目名	倫理学Ⅱ						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	3 年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：哲学関係）						
ねらい	医学・看護学の諸科学を学び、臨床実践家としての倫理観をさらに育むとともに、倫理的課題に積極的に対応するための考え方、倫理的感受性を高める。						
回 数	内 容					授業形態	
1 回	1 いのちについてあらためて考える					講義 DVD 視聴 GW	
2～6 回	2 現代医療の新たな課題と倫理的対応 1) 先端医療がもたらす倫理的ジレンマ 脳死と死の判定 延命治療 再生医療 2) 生殖補助医療の進歩と倫理的ジレンマ						
7 回	3 専門職業人としての倫理（職業倫理）					講義	
(45 分)						試験	
評価方法 及び観点	筆記試験 GW の参加度 レポートの提出状況 レポートの内容					等	
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座		専門基礎 別巻	医学概論（医学書院） 看護倫理（医学書院）			
参考資料	・講義に必要な資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・現代社会の倫理的課題について深く考え、積極的に探究する姿勢を望む。 ・DVD 視聴とグループワークをとおして、倫理的課題の対する考え方の意見交換をおこなうので、積極的に参加すること。						

科目名	人間関係論Ⅰ						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	長谷 静香（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	自己理解並びに他者理解を深め、コミュニケーション能力を高めるとともに、他者と良好な関係が形成できる基礎的能力を養う。						
回 数	内 容						授業形態
1～15 回 (45 分)	1 人間関係の基礎理論 1) 対人の認知 2) 帰属過程 3) 対人魅力の心理 4) 協同と競争 5) 集団間葛藤 2 人間関係の類型と諸相 3 コミュニケーション 1) コミュニケーションとは 2) 援助的コミュニケーション 4 人間関係の改善 1) 社会的感受性と人間関係 2) パーソナリティの変容 5 カウンセリング 1) カウンセリングの意義 ・対話による自己発見過程の探求 ・認識のつくりかえ過程の探求 2) 真の自己を発見していく過程 3) カウンセリング技術の基本						講義 演習
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 基礎 人間関係論（医学書院） 看護のための人間発達学 （医学書院） 看護師のためのアドラー心理学 （日本医療企画） 看護師のためのアドラー流子育て・自分育て （日本医療企画）						
参考資料	・講義資料は講師が適宜準備し、印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・人間関係論Ⅱ：人間関係ワークショップと連動する科目である。 ・カウンセリング理論は看護に重要な学習となるため、欠席しないように望むこと。						

科目名	人間関係論Ⅱ						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	長谷 静香（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	ワークショップをととして、対人関係形成能力を高めるとともに、体験的に自己理解並びに他者理解を深める。						
回 数	内 容						授業形態
1～8回 (45 分)	1 ワークショップ 1) 自分を知る・他者を知る 2) 自己理解 ものとの対話 宝地図作成 3) 自己理解と他者理解 宝地図のシェアタイム ミラーリング 4) 傾聴 5) 対人関係と役割 ライフタスク 6) クレヨンアート 2 ワークショップまとめ						ワークショップ
評価方法 及び観点	出席率 ワークへの参加姿勢 } で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 基礎 人間関係論（医学書院） 看護のための人間発達学 （医学書院） 看護師のためのアドラー心理学 （日本医療企画） 看護師のためのアドラー流子育て・自分育て （日本医療企画）						
参考資料	・講義資料は講師が適宜準備し、印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・人間関係論Ⅰの復習をして臨むこと。 ・演習として人間関係ワークショップを実施する。 ・人間関係ワークショップの詳細は別途目的・目標等を設定する。 ・人間関係ワークショップは宿泊を伴う研修となる場合もある。宿泊となる場合は原則として欠席を認めない。						

科目名	運動生理学						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師（実務経験のある理学療法士）						
ねらい	身体活動が心身に及ぼす影響と、健康の維持・増進のための運動を解剖生理学的に理解する。						
回 数	内 容						授業形態
1～7回	1 健康増進における運動の意義 2 運動と身体の生理 1) 骨格筋 - 身体運動と筋肉・骨の関係 2) 神経系 - 身体運動と神経のしくみ 3) 循環器系 - 身体運動の呼吸器・循環器への影響 4) 栄養代謝 - 身体運動による栄養代謝への影響 3 健康のための運動と実技 1) 運動処方概要 (1)運動処方の定義と必要性 (2)運動処方の過程 2) 運動処方の内容 (1)循環機能の向上 (2)代謝への効果 (3)肥満への効果 (4)精神的効果 (5)運動器への効果 3) 運動処方にもとづく運動の実際						講義 実技
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	なし						
参考資料	・ 授業資料は適宜準備し、印刷のうえ配布する。						
履修上の 留意事項	・ 実技に関しては積極的な参加姿勢を望む。 (けががないように、準備すること。) ・ 実技がある講義日については、運動のできる服装と飲料水を持参のうえ、授業に臨むこと。						

科目名	リラクゼーション						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	3 年
担当者名	外部講師（実務経験のある科目：ヨガ講師）						
ねらい	ヨガが心身に及ぼす影響を理解し、こころとからだを整えるヨガの基本動作を学び、自身の健康を振り返る機会とする。						
回 数	内 容						授業形態
1 ～ 7 回	1 ヨガとは 2 ヨガの心身に及ぼす影響と効果 1) 自律神経への影響 2) 骨・筋系への影響 3 ヨガの実際 呼吸法：腹式呼吸法のポイント 瞑想 ※ ヨガによる効果を体感する。						講義 実技
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	出席率 筆記試験 レポート } 等で総合的に評価する。						
必須資料 (テキスト等)	なし						
参考資料	・ 授業資料は適宜準備し、印刷のうえ配布する。						
履修上の 留意事項	・ 身体をゆるめる効果を体感するため、積極的な参加姿勢を望む。 ・ 各実習の終了翌日に講義を実施するため、欠席することなく参加を望む。 ・ 運動のできる服装と、ヨガに必要なヨガマット（あるいは大判のバスタオル）・タオル・飲料水を持参のうえ授業に臨むこと。						

科目名	芸術						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30 時間)	対象 年次	1 年
担当者名	絵 画：大塚 好雄（実務経験のある講師） 造形美術：井上 總子（実務経験のある講師） 音 楽：石島 貴子（実務経験のある講師）						
ねらい	芸術活動をととして、看護に必要な感性を養い、看護を想像・創造する能力と豊かな人間性を育む。						
回 数	内 容						授業形態
1～13 回	1 自己の興味ある芸術を選択し、活動する。 1) 絵 画：デッサン、パステル画 2) 造形美術：結城紬、藍染 3) 音 楽：合唱、ハンドベル						講義 実技
14・15 回 (45 分)	2 創作内容を発表し、互いに鑑賞する。 3 他者の作品を鑑賞することを通して、製作者の意図や心情を推し測る。						芸術発表会
評価方法 及び観点	筆記試験及び出席率・参加態度等で総合的に評価する。 ※ 絵画は作品制作に取り組む姿勢も評価する。 ※ 音楽は歌唱・ハンドベル演奏等、実技評価も実施する。 ※ 講義終了に際し、芸術発表会を開催する。						
必須資料 (テキスト等)	なし						
参考資料	・ 講義資料は必要時、各講師が準備し、印刷のうえ配布する。						
履修上の 留意事項	・ 作品制作に関しては、積極的かつ真剣に取り組む姿勢を望む。 (私語を慎み、作品制作に集中して取り組むこと。) ・ 音楽に関しては、歌唱及びピアノ伴奏並びにハンドベル演奏等、多岐に渡るため、メンバー間の協力し合う姿勢を望む。						

科目名	英語						
科目区分	基礎	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15 時間)	対象 年次	2 年
担当者名	外部講師（実務経験のある講師）						
ねらい	グローバル化する医療界に対応して、医療・看護場面における基礎的な英語力を習得する。						
回 数	内 容						授業形態
1～7回	1 医療・看護場面における英会話 1) 総合案内での対応－初診者への対応 受療科相談 院内順路案内 2) 外来 ー問診 症状を確認する 診療の介助 3) 入院案内 4) 手術・検査の介助 5) 退院準備						講義 演習
(45 分)							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。 ＊適宜ミニテストを実施し、最終評価に反映する。						
必須資料 (テキスト等)	CHECK-UP Basic English for Nursing 金星堂						
参考資料	・講義資料は必要時、講師が準備したものを、印刷のうえ配布する。						
履修上の 留意事項	・講義の間にミニテスト等を実施し、最終評価に反映するので、休まずに講義に臨むことを期待する。						